平成 25 年度第 1 回高知県環境審議会自然環境部会
議事要旨

日　時：平成 26 年 2 月 18 日（火）10:30～11:30
場　所：公立学校共済組合高知宿泊所「高知会館」
出席者：［委員］石川部会長、依光副部会長、多々良委員、時久委員、久松委員、細川委員、
　　松田委員（7 名）
　　［事務局］県林業振興・環境部 環境共生課（4 名）
　　［事務局補佐］西日本科学技術研究所（3 名）

１．開会

【事務局より開会挨拶と事務連絡】
・本日出席の高知県環境審議会自然環境部会委員の紹介。
・審議の内容は、県で定める「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、ホームページで公開する。

２．会議記録署名委員の指名

会議記録署名委員については、多々良委員、久松委員が部会長から指名された。

３．議事

◇生物多様性こうち戦略（案）の策定について

【事務局よりこれまでの検討経過の説明】
　戦略の検討組織として、7 名の委員からなる生物多様性こうち戦略（仮称）策定検討委員会（資料 2 P149）を設置した。また、生物多様性地域活動協議会（資料 2 P150）を立ち上げ、生物多様性に関わる活動を地域で展開している団体の方々に協力いただき、日頃の活動経験からさまざまなアイデア、ご意見をいただく場として設置した。会議の経緯は、専門家会議による検討（資料 2 P148 ページ）のとおりとなっており、本日を入れて 13 回、その他、タウンミーティングや事業所研修会を開催した。
　原稿の執筆に関しては、多くの専門家の皆様に協力をいただいた。
　本案は、検討委員会をはじめ、執筆いただいた先生方にもたくさんの意見をいただき、国や市町村、県庁内の関係各部署との調整も行っている。11 月にはパブリックコメントを実施し、2 名の方から 10 件の意見をいただき、一部反映させていただいている。

【事務局より戦略（案）について概要の説明】
（資料 1 に基づき説明。）

石川部会長：

全体の構成については、審議していく過程で随分変わった。生物多様性という概念を理解してもらう内容よりも、まずは高知県の現状を知ってもらう内容を先にもってきた。

生物多様性は、生態系サービスという言葉のとおり、いわゆる希少種、自然環境を守ろうということだけではなく、我々の暮らしそのものを支えているということで審議し、戦略の内容が幅広く多岐にわたっている。

タイトルも「生物多様性こうち戦略」という難しさを下げ、メインタイトルは理念の『ふるさとの いのちをつなぐ こうちプラン』とし、サブタイトルは、～豊かな生きものの恵みを受けて 美味しく 楽しく ずっと暮らそう高知県～とした。安全で美味しい食べ物をずっと摂りつづけるためには、豊かな自然、生物多様性が必要であるという思いを込めている。

戦略では、大きな事業をやるというよりも、我々の今までの暮らし、社会の有り様を見つめ直す新しい物差し、暮らしを支えているセーフティーネットとしての生物多様性という文脈で、今までの事業を整理し直そう、ということも審議されてきた。

推進体制が一番問題になったが、新しい生物多様性を取り仕切るセンターのようなものをつくるのは無理ということで、当面、環境共生課が「ハブ」を担い、この審議会も毎年チェックしていく機関として位置づけられている。ハブの役割は、すでに活動している多くの県民組織を繋げていく役割、情報を収集して発信する役割、生物多様性を認知してもらう役割などがあるが、戦略づくりは 10 年後、20 年後、100 年後に達成するためのロードマップを作っていくような作業だった。今後は、生物多様性の認知度を上げないといけないということで、それを当面の目標とした。

多々良委員：

最初にこの話を聞いた時に、大規模の話で大変だろうと思っていた。実際に戦略を見ると、これだけのデータを集め、まとめるのは大変な作業だったと思う。

生物多様性が４つの危機的な状況である、という戦略にしては、そのタイトルが、「豊かないきものの恵みを受けて」ということで、言葉の捉え方はあると思うが、最初から高知には豊かな自然、いきものがあると油断をしてしまいそうである。さらに「美味しく、楽しく、ずっと暮らそう」ということで、今ある自然で十分、と捉えられる。実際に高知の自然もだいぶ壊れているということがあまり表現されていない。受け手側の捉え方でそう捉えられるのではないか。

もう 1 点は、アンケート（資料 2 P78）で気になったのが、生物多様性の認知度が、県民は 20%だが、市町村は全くない。教育機関はかなり低い。底上げをしていくのに、大人は今から生活を変えるのは難しいので、子どもたちに教えていくことが大事ではないか。普及啓発の当面の取組として、もう少し直接的に小・中・高校に、生物多様性のカリキュラムを入れていくようなことをしたほうが、今後 5 年後、10 年後と先を見据えた時に効果があるのではないか。

石川部会長：

サブタイトルの意見については多々良委員と同じように危惧する意見もあったが、理想とするものをサブタイトルに出そうということになった。危機意識は戦略本体にかなり大きく書いているので、危機意識を煽るよりも目指す姿をタイトルにしようということとした。現段階で理念を変えるのは難しい。ご了承いただきたい。

アンケートについては、県民以外の主体の数字は「浸透しているか・いないか」だが、市

町村は「浸透している」は、ゼロだったのか。

事務局：
各市町村の環境部局に照会をしたが、「浸透している」という回答はゼロだった。市町村の職員間で浸透しているか、していないかということになる。

石川部会長：
環境教育が大事だということは、検討当初から言われており、小中学校での教育も随分議論した。取組事例として 111P（資料 2）に書いていることを教育関係、環境共生課などが積極的に推進していくということになっている。環境教育については、今後、非常に優先度の高い事業として取組んでいってもらう。

細川委員：
2014、15 年で「タンポポ調査」が始まる。先日、植物園で実行委員会があったが、集まるのは高齢者が多い。簡単な調査で身近な生きものを対象にするので親しみもある。子どもたちを巻き込んでやりたい。県やメディアにも PR してサポーターを募集してはどうか。2014 年は 3～5 月までで時間的に難しいが、2015 年には十分間に合うので、広報してもらったら参加しやすい。身近な自然を知るための生きた教材となるので、是非広報をしていただきたい。啓発はどうやってアクションを起こすかが大事。

時久委員：
小中高等学校の子どもたちへの環境教育は大事なこと。県内の学校でそれぞれ取組はやってはいるが格差が出ている。森林環境税で山の学習の予算を取ってくれているが、やっている地域とやっていない地域とに格差がある。この中に謳いこんで、自然体験、環境学習の機会づくりのプログラムなど、今後詰めてきちんと浸透させていかなければならないと思う。
環境とは違うが、県が子どもの学力面において言葉の力を高めようということで、指定事業にして新聞を活用した授業を地道に全県へ広げている。底上げができ、高知県の学力が高くなってきたというデータ結果がある。環境はとても大事なことだが、生物多様性については、自由募集だけかけていても今とあまり変わらない。

多々良委員：
興味のある人は大体決まっている。シンポジウムなどをやっても同じような人しか集まらない。

細川委員：
「タンポポ調査」もいろいろなところから投げかけているが、教育委員会に行っても重要視されないこともある。しっかり学校まで行き届くようにしたい。

時久委員：
たくさんいろいろな事業をやるよりは、一つの事業を継続してやっていくことでそれを切り口にして浸透させていく。そうすれば次に発展していく。

久松委員：

取組目標 2（資料 1 取組目標（1））の生物多様性サポーター登録で、これも広く県民に参加できるような募集の仕方をしたらいいと思う。

目標 11 の温室効果ガスで暫定値とあるが、これは目標がこれから増えていくだろうけれども、その量をなるべく減らしますという数値なのか。

事務局：

基準年が平成 2 年に設定されており、それから 31%の削減を平成 32 年までにするという目標を出している。現状、最新の数字を出しているので、一時的に目標をクリアしているが、これからの見通しとしては火力発電の増もあり、排出量は増加する見込みになっている。現状は一時的なクリアということになる。

久松委員：

目標 14 の目標（資料 1 取組目標（2））ゴミの量の目標は、956kg は g（グラム）ではないか。

事務局：

修正する。

松田委員：

行動計画の中で、目標 9（資料 1 取組目標（1））の有害鳥獣の年間捕獲頭数の目標が、27 年度には倍近くになっているが、今でも半分位しか獲れていないのが実態である。獲る、獲らないは狩猟者の減少等に原因があるが、ニホンジカを増やさない方策の検討もお願いしたい。主要の国道、県道、町道は草刈りをやり過ぎる。10 月に入って草刈りをすると、1 月には新芽が吹き出す。それがイノシシ・シカの餌になり得る。10 月は草刈りをせず、自然に枯らしていくような状況をつくってもらいたい。冬場に野生鳥獣の餌をつくらないというかたちで検討してもらいたい。

農業の産出額、新規就農者数は増やしていく数値目標になっているが、現状を見ると、一次産業が増えていく、産出額が多くなるという現状にはない。それよりも、現状を維持していくことに力を注いでもらいたい。

石川部会長：

新規就農者の目標はどこで立てているか。

事務局：

産業振興計画からきている。

石川部会長：

県の先行事業の数値を使っていることもあるので、現状を見る松田委員の意見は大切なこと。これだけに絞らずに、他の中山間地の振興計画、集落活動センターの施設など、いろいろなものが複雑に絡みあって効果を発揮し、一次産業の現状維持に働いていくとは思うが、なお考えられる手立てを今後検討していかなければならない。この目標は戦略の目標として認めていただき、それ以外にもこういうことを忘れないように常に考え続けていく必要がある。今後、検証結果を見ながら新しい取組を報告したり、提案したりというような流れになるかと思う。

今までのご意見では、概ねこの戦略（案）で進めていって良い、と解釈させていただいたが、

改めて議決をとらせていただきたい。この事務局が提示した案に、賛成の委員は挙手をお願いしたい。

委員：
　全員挙手

石川部会長：
　ありがとうございます。

４．閉会

　事務局より御礼の挨拶を述べ、自然環境部会を閉会した。